

サワイグループホールディングス株式会社

2022年3月期 決算説明資料

2022年5月11日

東京証券取引所 プライム市場
証券コード:4887

sawai

INDEX

目次

- 1 2021年度 決算概要 (P3-10)**
- 2 2022年度 業績予想 (P11)**
- 3 中期経営計画「START 2024」の進捗(P12-35)**
- 4 社会課題解決に向けた取り組み(P36-39)**
- 5 参考資料(P40-45)**

日本事業

- 下期の売上収益の伸びは鈍化

- ⇒他社の供給停止等により需要が増加、在庫状況を踏まえ限定出荷を継続

- ⇒限定出荷品目においては、新規採用等をお断りせざるを得ない状況

- ※4月に57品目の限定出荷を解除、現在の限定出荷品目数は394品目(5/11現在)

- 需要拡大に対応すべく夜間休日稼働で増産対応

- ⇒21年度生産数量は委託生産含め約151億錠(20年度:約139億錠、20年度比108.6%)

- 負ののれん約87 億円発生

- ⇒小林化工の生産活動に係る資産を2022年3月31日に譲受

米国事業

- 既存品目は苦戦、新製品やブランド薬は順調に推移

- ⇒主要品目への競合他社の参入影響大

- 米国子会社Upsher-Smith Laboratories, LLC(以下「USL」)の持続的成長のあり方を検討し、事業再構築の着手を決定

- 減損損失688億円計上

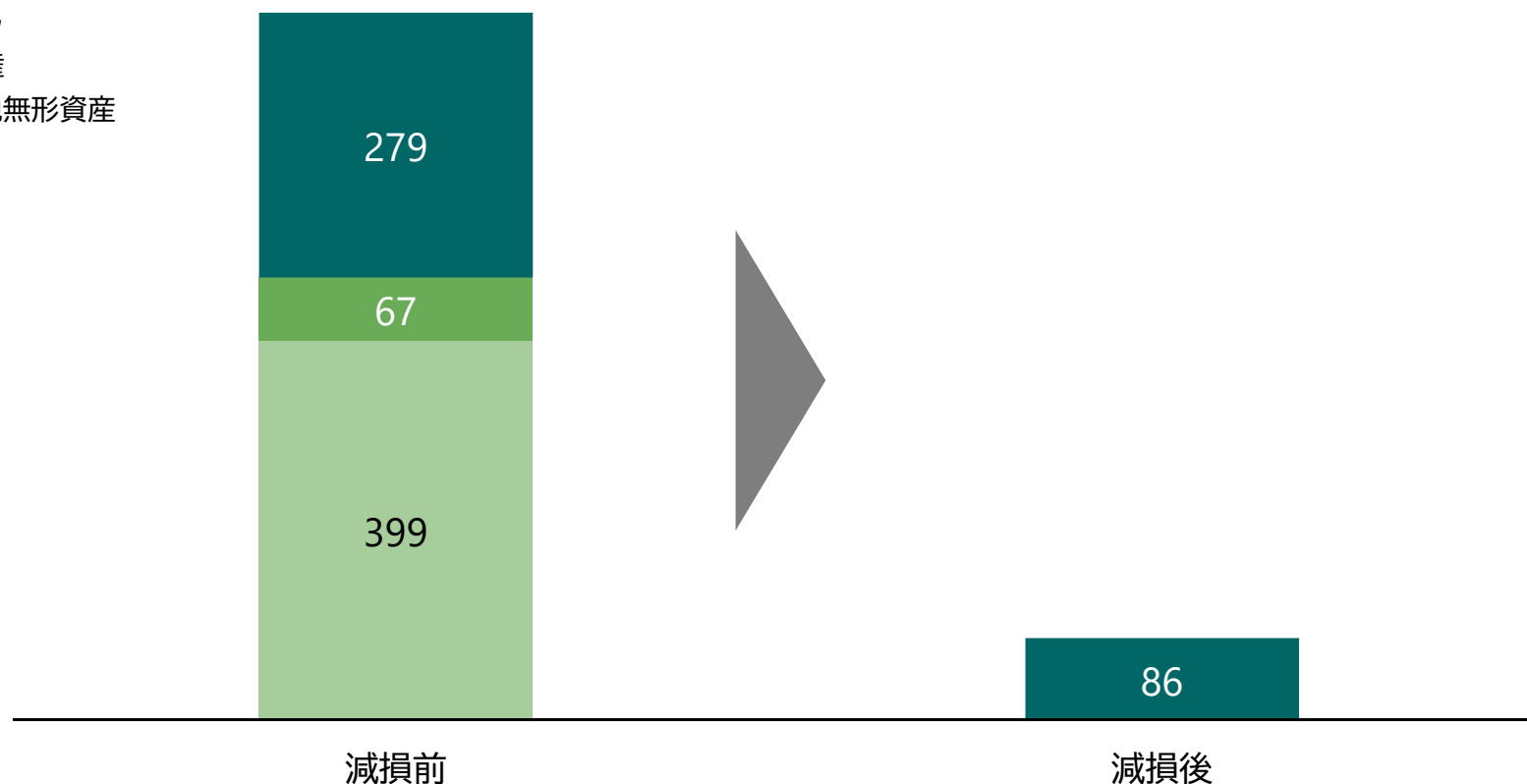
- ⇒将来計画を見直した結果、のれんをはじめとした資産について、回収可能価額が帳簿価額を下回る

- 当社子会社のUSL の持続的成長のあり方を検討、事業再構築に着手することを決定
- これに伴い米国セグメントの将来計画を見直した結果、回収可能価額が帳簿価額を下回り、688億円の減損損失計上(内訳: のれん・無形資産 659億円、有形固定資産 29億円)
- 米国事業の無形資産に係る今期の償却費は19億円となる予定

(単位:億円)

■ 米国事業の無形資産

- のれん
- 商標権
- その他無形資産



2022年3月期(2021年度) 決算概要

- 日本事業：薬価改定に加え、他社の供給停止等による限定出荷はあるものの、2020年度製品の売上増等により、売上収益は前期を上回って着地
研究開発費などの増加によりコア営業利益は減少
負ののれん発生益を計上したため、営業利益は前期を上回る
- 米国事業：主要ジェネリック医薬品への競合参入の影響等により、売上収益は前期を下回る
上記に加え、減損損失計上等により営業利益が大幅赤字となる

(単位:百万円)

	2020年度通期実績			2021年度通期実績			前期比
		日本	米国		日本	米国	
売上収益	187,219	153,584	33,635	193,816	163,841	29,975	+3.5% (+6,597)
コア営業利益	34,043	30,258	3,765	26,321	27,016	▲708	▲22.7% (▲7,722)
営業利益	18,888	26,284	▲7,396	▲35,888	32,361	▲68,249	— (▲54,776)
税引前利益	18,460	-	-	▲36,214	-	-	— (▲54,674)
親会社の所有者に 帰属する当期利益	12,340	-	-	▲28,269	-	-	— (▲40,609)

為替レート(期中平均)

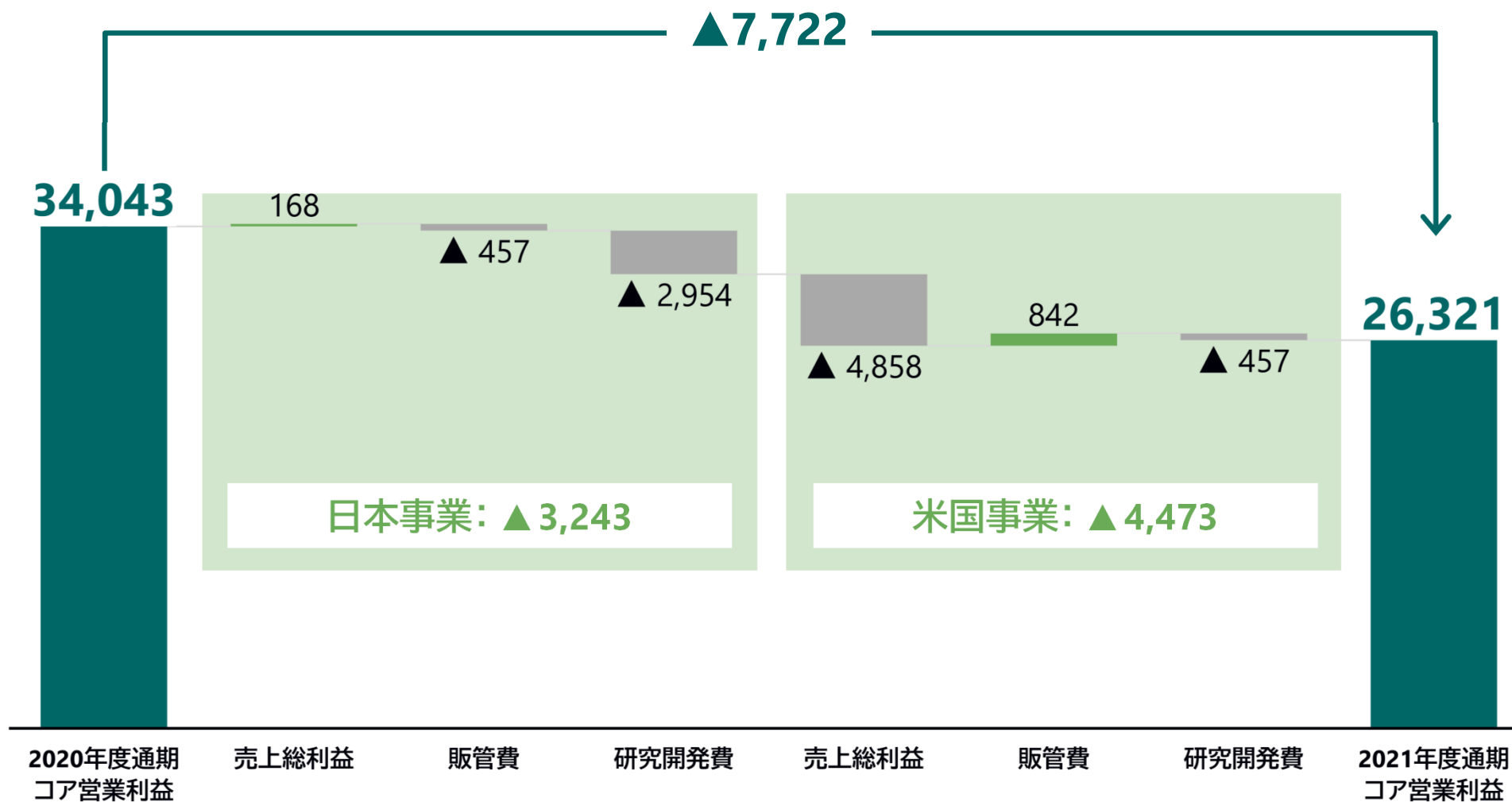
1ドル106円

1ドル112円

※ 日本と米国のセグメント別業績は調整があるため、全体の計数とは一致しない
※ コア営業利益は、営業利益から非経常的な要因等による損益を除いて算出

コア営業利益の増減要因

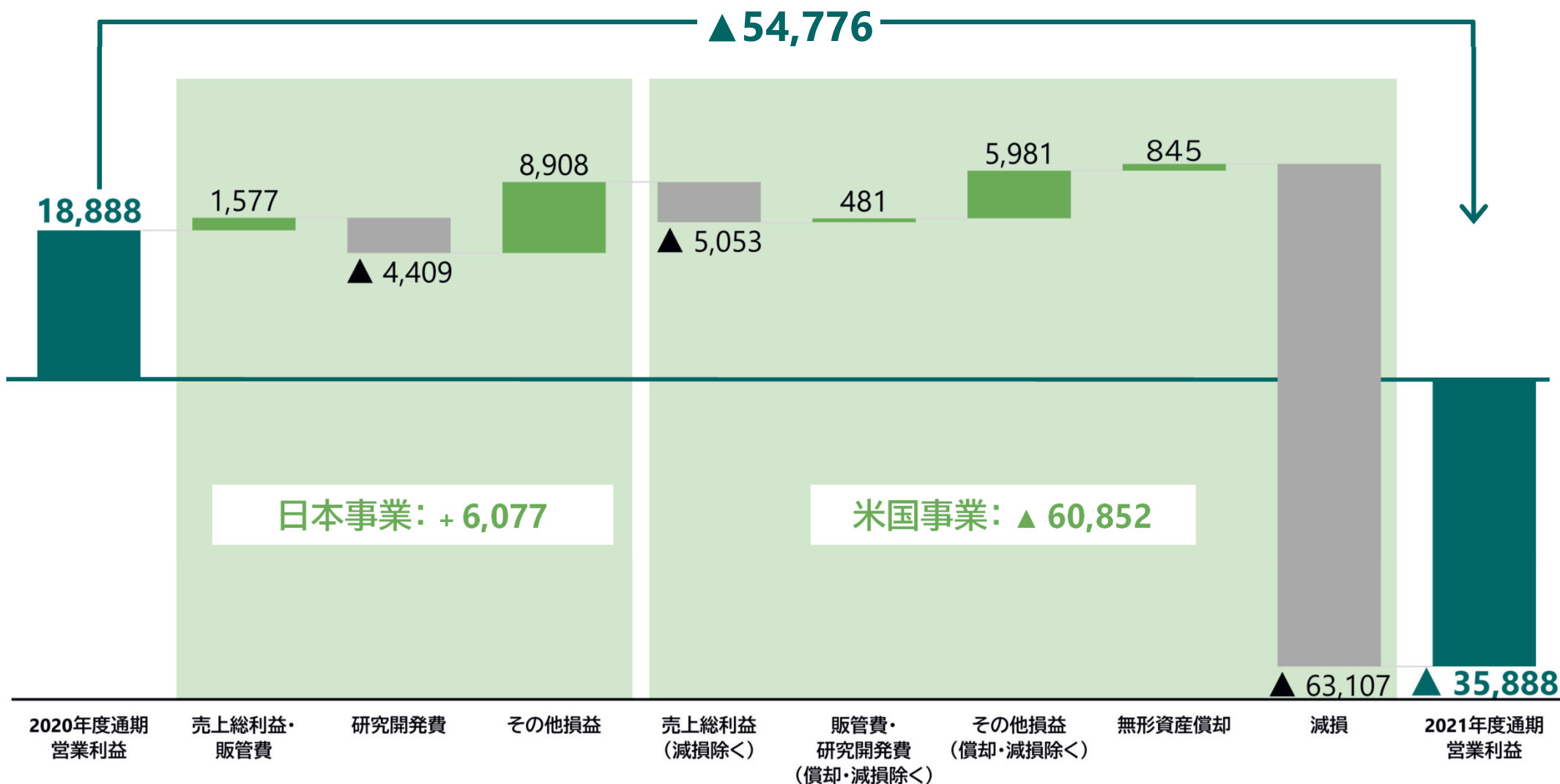
(単位:百万円)



※ 日本と米国のセグメント別業績は調整があるため、全体の計数とは一致しない

営業利益の増減要因

(単位:百万円)



【日本事業】 医療機関別納入実績

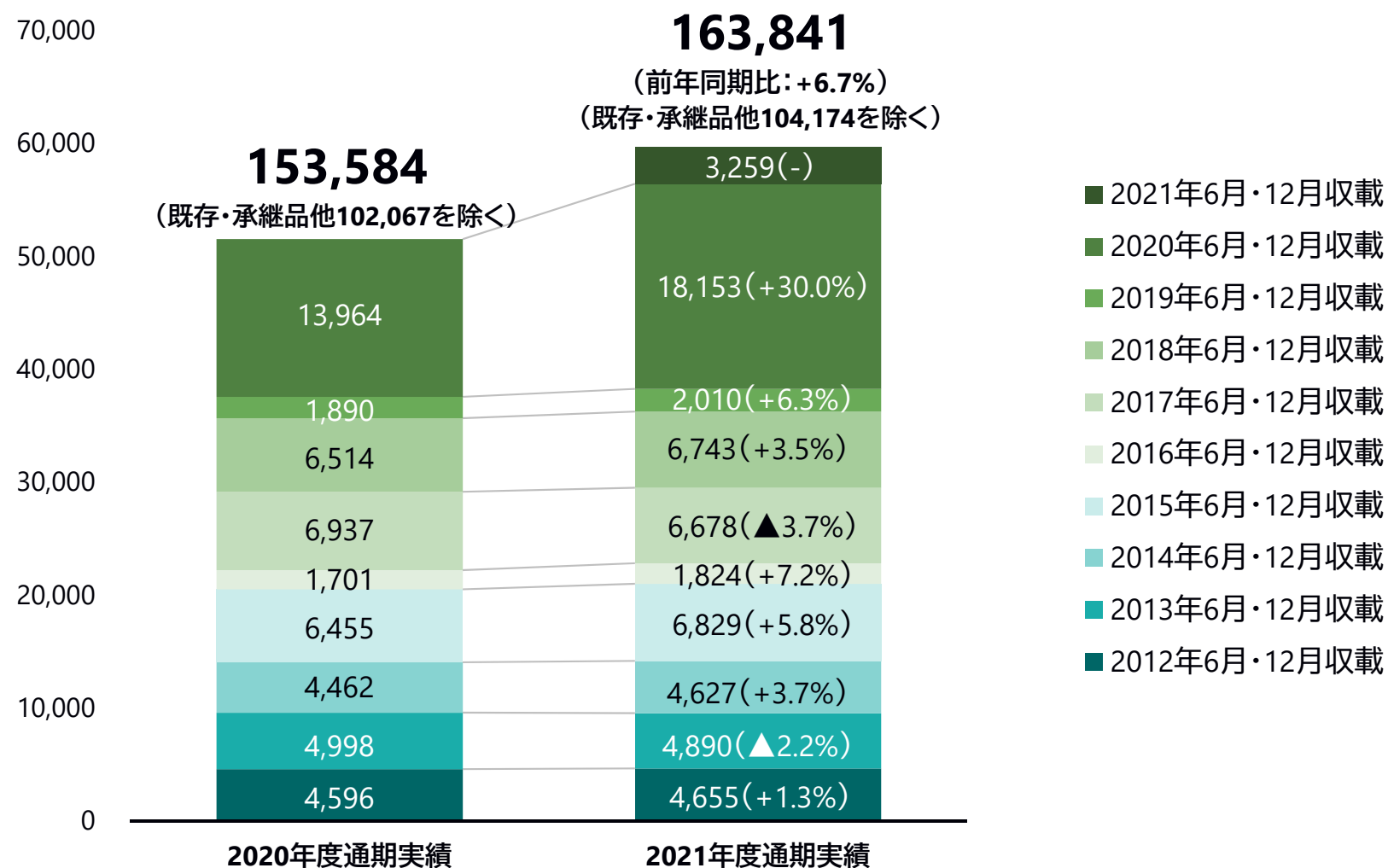
- 2020年度製品や主力品の採用が順調に推移し、薬局向けを中心に採用金額が増加

(単位: 軒、%)

医療機関		2020年度通期実績		2021年度通期実績			前期比	
施設区分	全国 総軒数(a)	採用軒数	採用金額 構成比	採用軒数 (b)	カバー率 (b/a)	採用金額 構成比	採用軒数 増減	採用金額 増減率
病院	8,216	8,048	10.3%	8,028	97.7%	9.9%	▲20	+0.9%
DPC 対象病院	1,757	1,749	6.3%	1,751	99.7%	6.1%	+2	+1.3%
診療所	108,236	40,922	9.0%	41,438	38.3%	8.5%	+516	▲0.1%
薬局等	89,932	59,955	79.5%	60,845	67.7%	80.5%	+890	+6.8%
保険薬局	62,831	59,624	78.9%	60,522	96.3%	80.0%	+898	+6.9%
薬店等	27,101	331	0.6%	323	1.2%	0.5%	▲8	▲3.2%
その他	-	-	1.2%	-	-	1.1%	-	▲2.9%
合計	206,384	108,925	100.0%	110,311	53.4%	100.0%	+1,386	+6.4%

- 2020年度収載品の売上が順調に増加

(単位:百万円)



【米国事業】 セグメント別売上収益

- 競合参入の影響により主要ジェネリック医薬品の売上が大きく減少
- 2021年6月発売のイソトレチノインを中心に2021年度新製品は計画を上回る
- また、ブランド薬は独自の流通・販売促進施策の効果により売上が増加

製品セグメント別売上収益

(単位:百万円)

	2020年度通期実績		2021年度通期実績		前期比
	売上収益	構成比	売上収益	構成比	
ジェネリック医薬品	27,226	80.9%	21,833	72.8%	▲19.8%
主要品目*1	15,587	46.3%	9,196	30.7%	▲41.0%
2021年度新製品	-	-	2,244	7.5%	-
その他	11,639	34.6%	10,393	34.7%	▲10.7%
ブランド薬*2	6,409	19.1%	8,142	27.2%	+27.0%
合計	33,635	100.0%	29,975	100.0%	▲10.9%

*1 Klor-Con®, Chlorpromazine, Qudexy® XR

*2 Zembrace Symtouch®, Tosymra®, Vigadrone®

薬効別売上収益

(単位:百万円)

	2020年度通期実績		2021年度通期実績		前期比
	売上収益	構成比	売上収益	構成比	
中枢神経系用薬	17,432	51.8%	14,579	48.6%	▲16.4%
循環器官用薬	10,715	31.9%	9,218	30.8%	▲14.0%
皮膚科用薬	593	1.8%	2,516	8.4%	+324.6%
ホルモン剤	1,181	3.5%	1,252	4.2%	+6.0%
泌尿生殖器官及び肛門用薬	1,555	4.6%	721	2.4%	▲53.6%
その他	2,160	6.4%	1,689	5.6%	▲21.8%
合計	33,635	100.0%	29,975	100.0%	▲10.9%

為替レート
(期中平均)

1ドル106円

1ドル112円

■ 連結

- 今期はトラスト社の先行コストが発生。トラスト社を除くコア営業利益は前期比12.5%増の296億円を予想

■ 日本事業

- 薬価改定の影響はあるものの、新製品等の売上により売上収益は増加
- トラスト社を除いて算出したコア営業利益は前期並みを予想
- 今期トラスト社の費用は減価償却費22億円含め約48億円を予定

■ 米国事業

- 引き続き事業環境は厳しいものの、抜本的な再構築を図り今期はコアベース、フルベースとも営業利益黒字化を目指す

(単位:百万円)

	2021年度通期実績			2022年度通期業績予想			対前期 増減率
		日本	米国		日本	米国	
売上収益	193,816	163,841	29,975	207,000	174,800	32,200	+6.8%
コア営業利益	26,321	27,016	▲708	24,800^{*3}	22,300	2,500	▲5.8%
コア営業利益 (トラスト社を除く)	-	-	-	29,600	27,100	2,500	-
営業利益	▲35,888	32,361	▲68,249	21,400	20,800	600	-
営業利益 (トラスト社を除く)	-	-	-	26,200	25,600	600	-
税引前利益	▲36,214	-	-	21,100	-	-	-
親会社の所有者に 帰属する当期利益	▲28,269	-	-	17,700	-	-	-

為替レート(期中平均)

1ドル112円

1ドル120円

*1 日本と米国のセグメント別業績は調整があるため、全体の計数とは一致しない

*2 コア営業利益は、営業利益から非経常的な要因等による損益を除いて算出

*3 営業利益から次の項目を調整 日本事業:販管費 500、研究開発費 1,300、その他収支▲300

米国事業:販管費 1,500、研究開発費 400

中期経営計画
「START 2024」
の進捗

創りたい世界像

より多くの人々が身近に
ヘルスケアサービスを受けられ、
社会の中で安心して
生き活きと暮らせる世界



ありたい姿

個々のニーズに応じた、
科学的根拠に基づく製品・サービスを
複合的に提供することで、
人々の健康に貢献し続ける
存在感のある会社

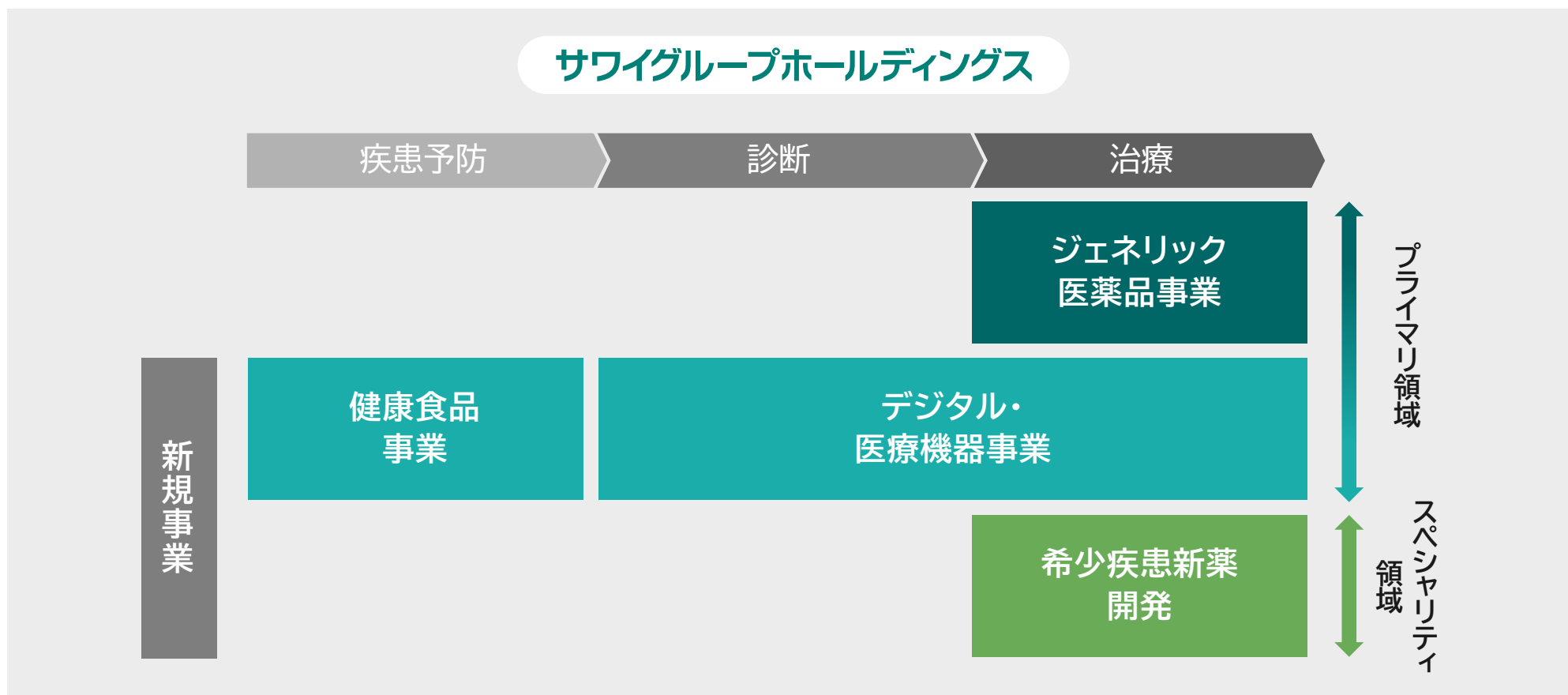
(円/\$ = 100)

目標及び前提数値

		2021年度実績	「Vision 2030」 2030年度
日本事業	売上収益	1,638億円	2,600億円
	販売数量	148億錠	200億錠
	販売数シェア	16.3%	20.0%以上
	生産能力	155億錠	230億錠以上
新規事業	売上収益	—	800億円
米国事業	売上収益	300億円	600億円
売上収益合計		1,938億円	4,000億円
ROE		—	10%以上

ジェネリック医薬品事業を中核に新規事業も育成

プライマリ領域において、予防から治療まで幅広い範囲で、薬剤治療に限らない選択肢を提供
また、これまでにない治療機会を提供すべく、希少疾患領域の新薬開発事業にも参入



ジェネリック医薬品
事業



新規事業への進出

1 国内GE市場におけるシェア拡大

- 新製品の売上増加
- 安定供給力の強化

2 米国事業における将来の成長に向けた事業投資

3 新たな成長分野の開拓

- デジタル・医療機器事業
- オープン医薬品事業(ALS等)
- 健康食品事業

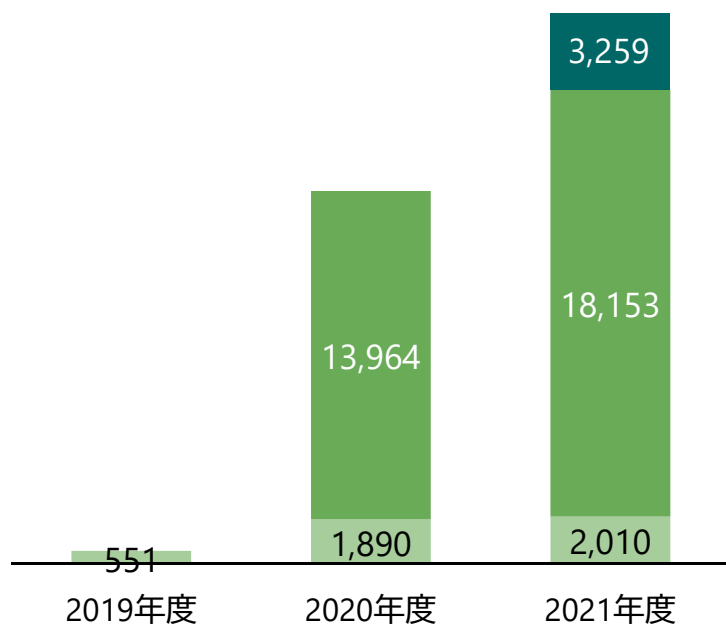
国内GE市場に おけるシェア拡大

- 2021年度は競争優位品目6製品をはじめ32製品を発売
- 未収載品があったことや発売時期の遅れ等もあり売上は3,259百万円にとどまるも、今期以降の売上拡大を目指す

過去3年間発売した品目の売上収益

(単位:百万円)

- 2019年度発売品目
- 2020年度発売品目
- 2021年度発売品目



過去3年間発売した品目数と単独上市、競争優位品目数

	2020年度	2021年度
品目数	42	32
内、単独上市品目、競争優位品目数	9	6
主な発売品 (成分名)	・ エルデカルシトール ・ バゼドキシフェン ・ フェキソフェナジン塩酸塩・塩酸プソイドエフェドリン (プソフェキ配合錠) ・ レパグリニド ・ バルデナフィル	・ コハク酸ソリフェナシン ・ アジルサルタン・アムロジピンベシル酸塩 ・ エスゾピクロン ・ デュロキセチン塩酸塩 ・ レバチラセタム ・ イグラチモド

- 競争優位品目の早期開発を実現
- 少しでも早く患者さんや医療従事者に当社のジェネリック医薬品を届けることで社会に貢献するとともに収益の拡大を目指す

■ 新製品発売計画

	2021年度(実績)	2022年度	2023年度
成分数	13	9	7
製品数	32	21	17
先発市場(億円)	-	2,691	1,541

上記以外にも単独上市品目の発売を計画

今後の主な 取り組み

- サワイの製剤技術力を生かした品質確保を前提とした高難易度の製剤開発(特許出願を含む)
- 患者さん、医療従事者の方々への安定供給を第一に品質確保を見込んだ製剤設計、早期工業化への取り組み強化
- 難易度の高いBE試験(臨床試験)の成功確度向上
- 新規事業などターゲット領域の拡大

国内GE市場シェア拡大に向けた取り組み ～トラストファーマテック株式会社について

- サワイGHDは小林化工の生産活動に係る資産及び関連部門人員の譲り受けを目的にトラスト社を設立
- 3月末日に医薬品製造に係る資産を譲受
- 同社工場での初出荷は2023年4月を予定

■ トラスト社の概要

設立年月日	2021年12月3日
主な事業内容	医療用医薬品の製造
本社所在地	福井県あわら市矢地5-15
代表取締役	蓮尾 俊也(はすお としや)
従業員数	403名(2022年4月1日現在)
生産能力	30億錠

■ 今後のスケジュール



PV : プロセスバリデーション(Process Validation)

■ 製造・研究施設



- 沢井製薬の各工場と同等の生産活動が実施できるよう、サワイの新入社員・中途採用社員の受け入れ研修の内容を基準に、座学・実地研修を実施
- 3ヵ月毎に達成度を評価し、継続して実施予定

4月実施事項

- “企業理念・コンプライアンス・薬機法・GMP※1”の基本研修を実施
- 習熟度に合わせ、担当業務の関連手順書、実例研修

5月以降実施予定事項

- 沢井製薬 信頼性保証本部、生産本部各工場の技術者による現地指導を計画的に実施
- 管理者・責任者に対し、管理・確認・承認スキームに係る周知・手順指導を実施
- GMPに関して実績記録の評価も沢井製薬 信頼性保証本部、生産本部各工場QA※2により毎月監査的に実施。

■ 沢井製薬の既存工場での研修

- 工場関係者の約半数は、沢井製薬の既存工場でサワイ基準の生産方法の実践習得を予定
- その他トラスト社で中心的な業務を担当する社員も適宜、既存工場での研修・習得を予定

※1 GMP: 医薬品及び医薬部外品の製造管理及び品質管理の基準

※2 QA: 品質保証

国内GE市場シェア拡大に向けた取り組み ～第二九州工場 新固形剤棟建設

- 2021年10月に第二九州工場の新固形剤棟建設投資を決定
- 生産能力は、ステップ1、ステップ2合計で30億錠、初出荷は2024年4月を予定

■ 本件の概要

目的	需要増加、今後のジェネリック医薬品のさらなる市場拡大に対応するため
名称	第二九州工場 新固形剤棟
所在地	福岡県飯塚市平恒1144-3
投資額	ステップ1：約350億円 ステップ2：約55億円
生産能力	ステップ1：2024年に20億錠追加 ステップ2：10億錠追加 (ステップ2は、他社を含む市場の動向、 当社新製品開発状況等を勘案し遅滞なく実施)
新規雇用 予定人数	ステップ1：330名 ステップ2：490名(ステップ1を含む総人数)

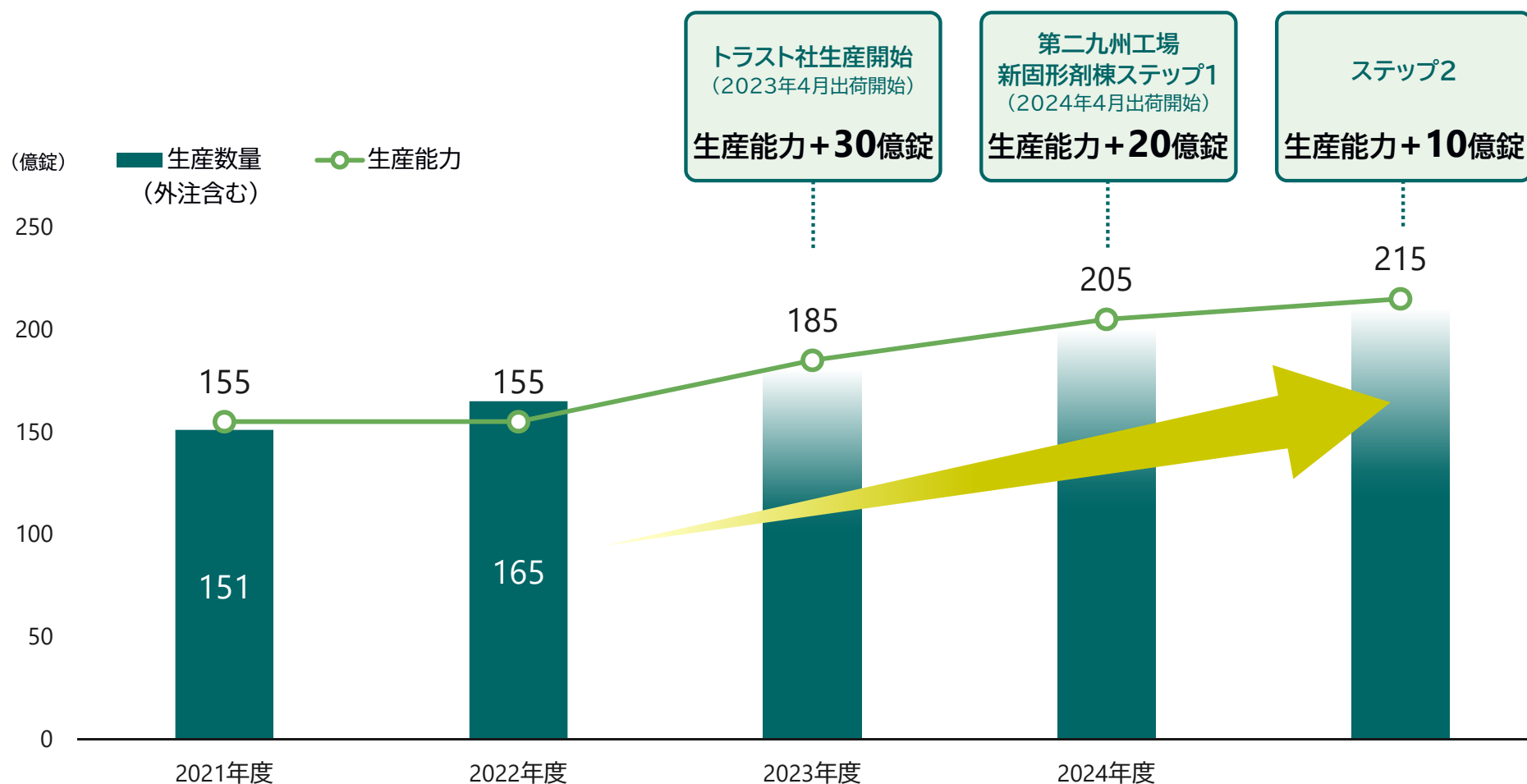


■ 今後のスケジュール



安定供給力強化に向けた今後の生産能力

- 今期は既存工場の人員増等による増産で、外注含め約165億錠を計画(前期実績151億錠)
- 来期(2023年度)以降、トラスト社、第二九州工場新固形剤棟が順次稼働
- 国内GE市場内でのさらなるシェア拡大を目指す



米 国 事 業 の 戦 略

目指す姿

- スペシャリティGE医薬品企業として、独自の販売力を活かせるGE医薬品、ブランドジェネリック、ブランド薬にフォーカスし持続的で長期に亘る成長を推進

成長戦略

- 既存ブランド薬の販売を促進するとともに、USLの知名度を活用し、ジェネリック医薬品市場における市場の混乱においても収益を拡大させる
- 製品コストダウン施策にともなう売上総利益率の増加によりジェネリック市場の競争力向上
- ニッチなジェネリック医薬品を中心にさらなる製品ラインナップの充実
- 提携によるパイプラインの強化

製品戦略	既存製品	キーとなる主力製品への注力 - Zembrace、Tosymra：事前承認手続きの処理や処方箋への正しい記入などで医師を支援する新たな Field Reimbursement specialistsを導入 - TosymraからZembraceへリソースをシフトし、全体として高い投資対効果を実現 - Vigadrone：マーケットシェアと価格を維持 - ジェネリック医薬品：ジェネリック医薬品のコストダウン施策に注力
	新規製品 パイプライン	ジェネリック医薬品 既存製品の価格下落による収益減を新製品の投入によりカバー。2023年度には、数品目新製品の上市を計画
		505(b)(2) - 新たなブランド薬の導入により成長 505(b)(1)製品よりも迅速かつ低コストで市場に投入できる505(b)(2)に注力
		CNS領域への注力 専門性を高めてきた中枢神経系(CNS)で短期的に収益チャンスのある新製品のパイプラインへの追加に引き続き注力
		オーファンドラッグ ニュージェン・ファーマ社と共同開発していた筋萎縮性側索硬化症(ALS)治療薬については臨床試験に向けて準備中
コストコントロール施策		コスト削減のため、研究開発機能やポートフォリオの再編を実施。コスト削減の効果は、中止したパイプライン品で得られたはずの利益を大幅に上回る。

■ 売上収益安定に向けた施策

- 米国市場はジェネリック医薬品価格の下落が継続すると予想
- ジェネリック医薬品の価格下落をブランド薬の増収でカバー
- 2021年度製品の売上が通期でフル寄与

■ コスト圧縮策

- 2021年度に実施した構造改革により、研究開発コストを大幅に削減
- 製品ポートフォリオから収益性の低い品目のみ削除したため、将来の収益性に与える影響は軽微
- 複数の原薬調達先の見直しなどによるコスト削減策により売上原価率を低下

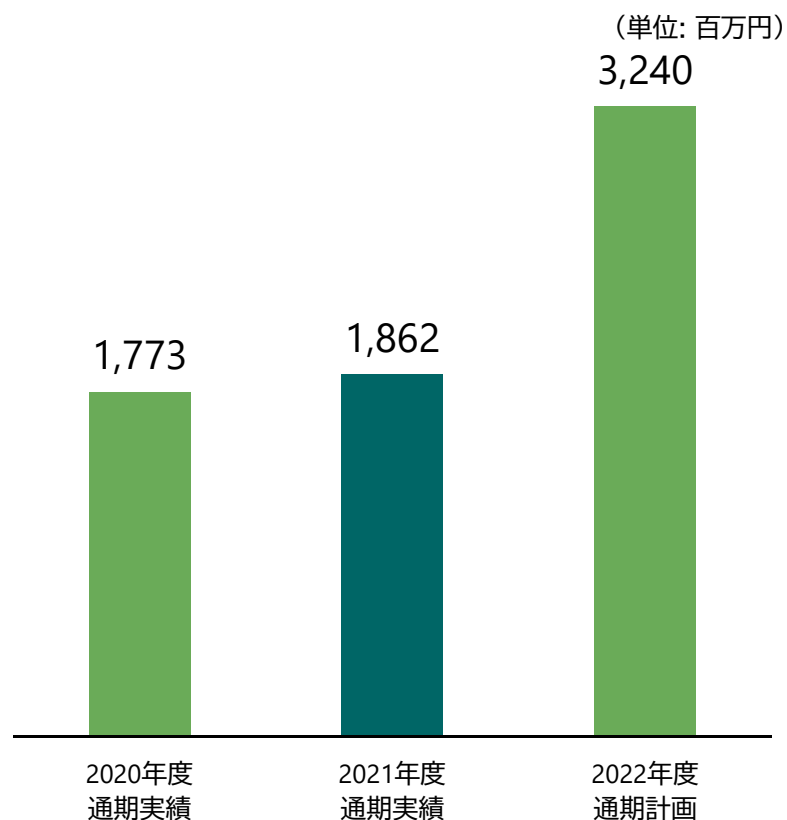
■ 開発戦略について

- 今後の新製品は他社との提携に注力
- 成功報酬型の取引構造にすることにより、開発ポートフォリオのリスクを低減

【米国事業】 ZembraceおよびTosymraの業績

- ZembraceとTosymraを合計した売上実績は\$17M(1,862百万円)。
- Tosymraは競合製品である新薬(CGRP拮抗薬)の営業活動の影響で計画を下回る
- 今期はZembraceに注力し、2製品合計の売上は\$27M(3,240百万円)を計画

■ 売上収益 (Zembrace、Tosymra)

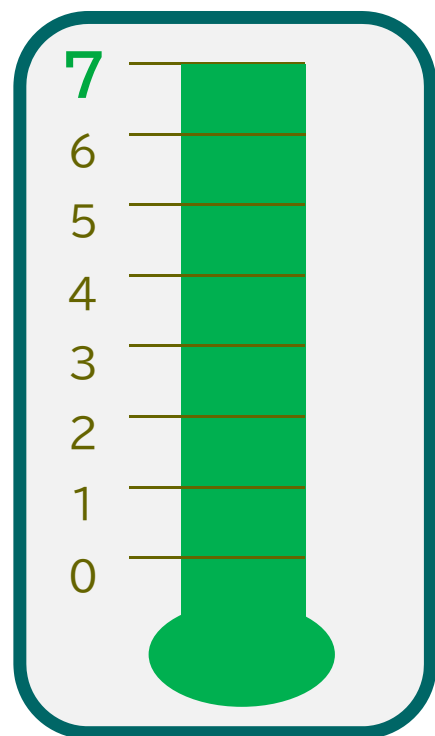


■ 重要施策

- 平均売価の改善
“Field Reimbursement Specialists”の新設により保険適用事前承認追加率を向上
- 新規処方箋の拡大
他の片頭痛治療薬の処方箋を書いている医師をターゲットに、Zembraceへの注力を強化

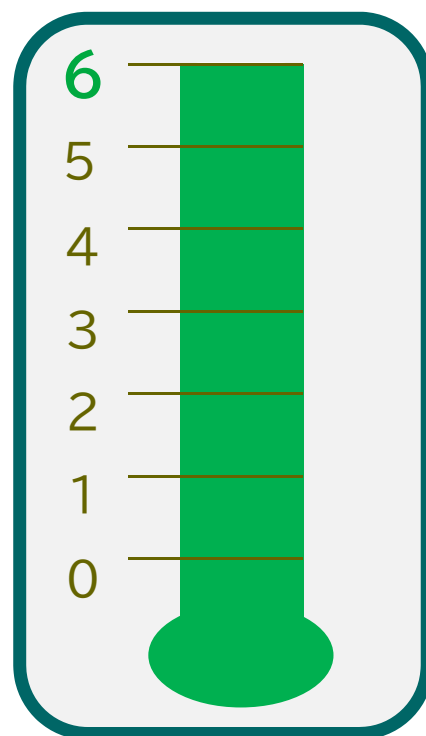
新製品の開発状況について

- 21年度は、イソトレチノインなど4製品を上市。市場環境悪化にともない一部製品の発売を見送った。
- ポートフォリオの合理化により収益性の低い品目を削除。今期の発売予定は2製品



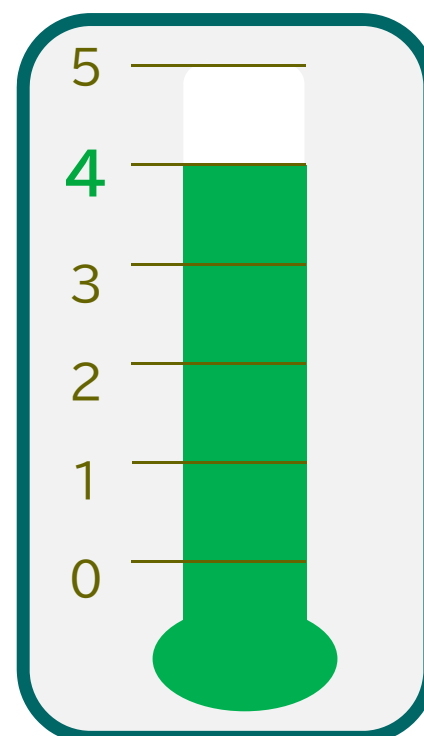
申請

目標7件達成



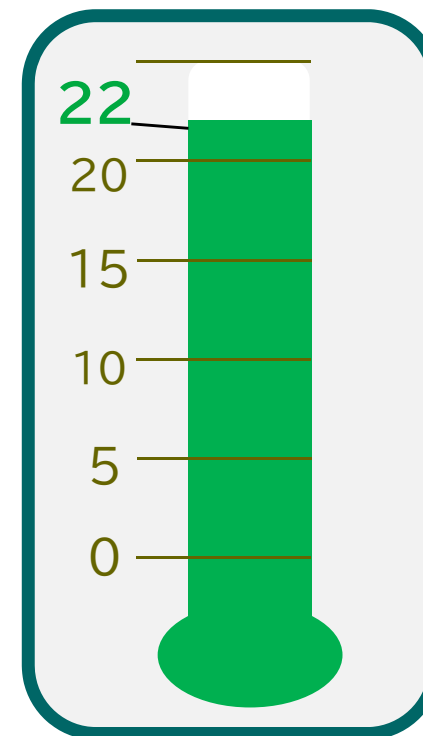
承認

6件達成
(目標5件)



発売

4製品上市
(目標5製品)



パイプライン

22製品
2022年3月末現在



工場新設プロジェクトとは

コロラド州にあるデンバー工場を、ミネソタ州メープルグローブにある本社と繋がる新工場にするもの
新工場への集約により、オペレーティングコストを抑え、品質と効率のさらなる向上を実現。スケジュール、予算ともに計画通りに進行中

期待できるベネフィット

- 工場の統合と製造委託品の内製化による2023年以降の利益への好影響
- 最新工場への生産統合により得られる長期的なメリットによる生産性の向上
- 電子製造記録システム導入や原材料および製造フローの改善による品質の向上

達成事項

- 建設工事が2021年12月に概ね完了
- 設備の試運転が進行中
- デンバー工場の稼働は今年の秋頃までを予定
- 商業生産の継続性は計画通りに進行中

■ 主な予定

Feb 2022

デンバー製品移管のための
建設工事完了

Jul 2022

最初の品目の稼働性能検査
およびバリデーション完了

Dec 2022

デンバー工場製品 移管完了

- 社長兼CEOのRusty Fieldが退任したことにもない、新たなマネジメント体制に移行

氏名	役職 (就任日)	サワイグループホールディングスにおける現職
中岡 卓	会長 兼 CEO (2022年5月13日付)	上席執行役員 グループ米国事業担当役員 兼 グループ戦略企画部管掌 (2022年6月24日付)
Rich Fisher	社長 兼 COO (2022年4月7日付)	-
Dave Amelotte	Chief Administration Officer and CFO (2018年4月より現職)	-
Scott Hussey	SVP Sales & Marketing (2013年10月より現職)	-
Scott Denicourt	SVP Operations (2018年4月より現職)	-
Arun Nataraj	VP Corporate Development (2021年9月より現職)	-

新 た な 成 長
分 野 の 開 拓

新薬事業 (オーファン疾患)

■ 希少疾患用医薬品(オーファンドラッグ)

- ・ ニュージェン・ファーマ社と共同開発していた筋萎縮性側索硬化症(ALS)治療薬については臨床試験に向けて準備中
- ・ 社内の評価体制を強化し、継続してパイプライン拡充を検討中

デジタル・ 医療機器事業

■ デジタルヘルスケア領域での事業展開

- ・ 治療アプリについて他社との協業を検討中

■ 片頭痛・うつ病向けデジタル医療機器

- ・ 片頭痛・うつ病向け医療機器について2022年の承認申請に向け準備中

■ PHR(パーソナルヘルスレコード)事業

- ・ インテグリティ・ヘルスケアと協業を開始。同社がOEM提供する健康管理アプリ「SaluDi」をリリース
- ・ 今後様々なサービスの立ち上げ・拡充を進める予定

健康食品事業

■ 健康寿命の延伸(ロコモ・フレイル対策、認知症、生活習慣病予防等)をサポートする健康食品事業

- ・ 商品開発、機能性表示の届出、商標登録完了
- ・ テストマーケティング実施に向け準備中

- 各部門と連携し申請、発売に向け準備中
- 2022年度内のPMDA(医薬品医療機器総合機構)への承認申請、2024年中の発売を目指す

片頭痛・うつ病向けのデジタル医療機器について

- 2021年1月に、Neurolief社と日本における独占開発販売契約を締結
- 非侵襲型のニューロモデュレーション機器で患者さんが自宅にて使用可能
- 患者さんは専用アプリを通じて、医師との治療データの共有や、クラウドデータベース上に治療データのアップロードが可能
- AI技術により治療を学習・解析し、患者さんの症状に合わせた治療が可能な設計
- 薬剤治療を受けているが効果を感じられない患者さん等に対し、新たな治療手段として訴求
- Neurolief社がFDA(米国食品医薬品局)より片頭痛を適応症とした承認を取得

※ 対象患者数

- ・ 片頭痛患者のうち薬剤治療不応な患者さん : 39.2万人
- ・ 急性期のうつ病患者で薬剤治療不応な患者さん : 16.1万人

今後のスケジュール

● 片頭痛

現状 : 開発前の当局への事前相談
計画 : (申請) 2022年度内
(上市目標) 2024年

● うつ病

計画 : (申請) 2023年
(上市目標) 2025年

- 日々の健康状態の記録・管理、オンライン診療予約・受診、未病・予防対策情報閲覧の機能を搭載したPHR管理アプリ「SaluDi」を2021年10月にリリース

主な機能

① 健康関連情報の提供

- ✓ 疾患情報
- ✓ サワイ健康推進課の情報



② データ(PHR)の記録、可視化

- ✓ 外部の測定機器と連携し自動入力
- ✓ 食事写真、検査データ、お薬手帳も管理



③ コミュニケーションツール

- ✓ 医療機関と患者さんとのメッセージ交換機能
- ✓ 医療機関が連携して患者さんをサポート可能



メッセージ機能

共有したデータについて、医師や家族とコミュニケーションを取ることができます。



PDF・CSV出力

糖尿病手帳や血圧手帳の形でPDFを保存すれば、メール添付や印刷しての持ち運びなど、便利にご活用いただけます。

※ クラウド連携が必要です。

④ オンライン診療との連携

- ✓ 記録したPHR(Personal Health Record)を医療機関と連携したうえで診療が可能

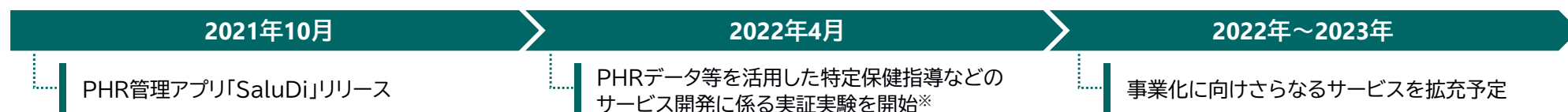


- 「治療薬＋情報薬で医療に貢献」というスローガンのもと、医療情報・健康情報の提供や活用を進める
- 様々な企業との戦略的連携により患者さん・医療従事者などのステークホルダーを繋ぐ役割を担うことを目指す

PHR事業の全体構想図

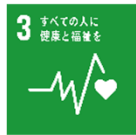


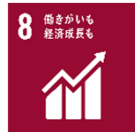
主なスケジュール



社会課題解決に 向けた取り組み

- 当社グループの最大の社会貢献は、ジェネリック医薬品の提供による医療費負担の軽減を通じた医療保険制度の持続性向上と医療アクセス向上
- 沢井製薬の医薬品の販売数量は2021年度で約148億錠、国内で販売される医薬品の数量の約8.2%を占める（当社分析による）

取り組む課題	数値目標等	2021年度実績	関連するSDGs
持続可能な社会保障制度と医療アクセス向上への貢献 （GEによる医療費節減）	日米GE事業売上の約2倍の医療費節減効果	医療費節減額 ● 日本事業 3,382億円 ● 米国事業 994億円	 
新規事業による健康寿命延伸への貢献	未病・予防を含むより広いヘルスケア領域に事業拡大	P31～P35参照	

取り組む課題	数値目標等	2021年度実績(主な取り組み)	関連するSDGs
E 環境に配慮した生産	生産数量原単位 CO ² 排出量25%削減 廃プラ再資源化率65%以上 (2030年時点)	- 三田西工場に太陽光発電パネル設置 - TCFD対応に伴う気候変動リスク等策定中 - CO²排出量、廃プラ再資源化率の実績数値は現在集計中	
S 人材育成、働き方・働きがい、人権尊重	安全・多様な職場環境 ダイバーシティの推進 人権尊重への取り組み	安全・多様な職場環境 - コロナワクチンの職域接種 - 在宅勤務制度の本格導入 - 従業員の健康診断受診率100% - ストレスチェック結果に係る職場改善への活用 ダイバーシティの推進 - 法定障がい者雇用率達成、定着に向けた取り組みの実施 人権尊重への取り組み - ハラスメントに関するコンプライアンスeラーニング - ハラスメント等相談窓口の設置	 
G コーポレートガバナンスの深化	持株会社化を通じたガバナンスの整備・運用深化 リスクマネジメント・コンプライアンス強化	グループガバナンス体制の整備、改善 - Gガバナンス会議の開催 - 関係会社メンバーを含む各種委員会の取締役会への直接報告 - 関係会社案件のHD承認・報告事項ルールの整備・運用 - コンプライアンス、情報セキュリティ等のeラーニング - 取締役会の実効性改善	

なによりも健やかな暮らしのために

サワイグループホールディングスの事業を通じた 社会課題への取り組み

- ジェネリック医薬品事業を通じた持続可能な社会の実現
- 新規事業により健康寿命の延伸にも貢献

ジェネリック医薬品事業を中核に、
社会と共に持続的に発展するヘルスケア企業グループとして、
ひとりでも多くの人々の健康に貢献できるように努めてまいります。

参 考 資 料

- 各薬効群とも売上数量は大きく増加

(単位:%)

	2020年度通期実績	2021年度通期実績	前期比 数量増減率	前期比 売上額増減率
	構成比	構成比		
循環器官用薬	29.7%	29.3%	+9.8%	+1.8%
消化器官用薬	18.2%	17.0%	+3.8%	▲1.2%
中枢神経系用薬	13.2%	13.9%	+17.1%	+18.9%
血液・体液用薬	8.1%	8.4%	+16.0%	+9.2%
その他の代謝性医薬品	6.8%	7.0%	+14.5%	+13.2%
ビタミン剤	5.8%	6.0%	+15.8%	+9.1%
呼吸器官用薬	5.2%	5.3%	+15.6%	+12.7%
抗生物質製剤	1.8%	1.9%	+16.5%	+13.0%
泌尿生殖器官及び肛門用薬	1.5%	1.7%	+24.9%	+14.4%
その他	9.7%	9.4%	+8.9%	+2.8%
合計	100.0%	100.0%	+11.4%	+6.7%

純損益計算書項目

(単位:百万円、%)

	2020年度実績		2021年度実績			2022年度業績予想				
	通期	売上比	通期	売上比	前期比	上期	売上比	通期	売上比	前期比
売上収益	187,219	100.0%	193,816	100.0%	3.5%	100,600	100.0%	207,000	100.0%	+6.8%
売上原価	114,785	61.3%	127,164	65.6%	10.8%	68,600	68.2%	138,500	66.9%	+8.9%
売上総利益	72,434	38.7%	66,652	34.4%	▲8.0%	32,000	31.8%	68,500	33.1%	+2.8%
販管費	39,937	21.3%	46,690	24.1%	16.9%	16,700	16.6%	34,100	16.5%	▲27.0%
研究開発費	13,883	7.4%	24,413	12.6%	75.8%	5,800	5.8%	13,300	6.4%	▲45.5%
その他の収益・費用	274	0.1%	▲31,436	-	-	100	0.1%	300	0.1%	-
コア営業利益	34,043	18.2%	26,321	13.6%	▲22.7%	11,300	11.2%	24,800	12.0%	▲5.8%
コア営業利益 (トラスト社除く)	-	-	-	-	-	13,700	13.6%	29,600	14.3%	-
営業利益	18,888	10.1%	▲35,888	-	-	9,600	9.5%	21,400	10.3%	-
営業利益 (トラスト社除く)	-	-	-	-	-	12,000	11.9%	26,200	12.7%	-
税引前利益	18,460	9.9%	▲36,214	-	-	9,400	9.3%	21,100	10.2%	-
親会社の所有者に帰属する 四半期(当期)利益	12,340	6.6%	▲28,269	-	-	7,900	7.9%	17,700	8.6%	-
EBITDA(調整後)※1	45,481	24.3%	37,022	19.1%	▲18.6%	17,800	17.7%	37,600	18.2%	+1.6%

※1 コア営業利益+コア営業利益算出上マイナスされる減価償却費及び償却費・減損損失

財政状態計算書項目

	2020年度末	2021年度末
資産合計	393,341	349,502
資本合計	240,750	200,083
親会社所有者帰属持分比率	55.5%	54.4%

1株当たり情報

	2020年度 通期実績	2021年度 通期実績	2022年度 通期予想
基本的1株当たり 当期利益	281.80	▲645.53	404.19
(希薄化後)	281.51	▲645.53	-
1株当たり配当金※2	130.00	130.00	130.00

連結財務ハイライト-2

(単位:百万円、%)

日本事業 純損益計算書項目

	2020年度実績		2021年度実績			2022年度業績予想				
	通期	売上比	通期	売上比	前期比	上期	売上比	通期	売上比	前期比
売上収益	153,584	100.0%	163,841	100.0%	+6.7%	84,300	100.0%	174,800	100.0%	+6.7%
売上原価	97,401	63.4%	106,088	64.8%	+8.9%	58,700	69.6%	119,300	68.2%	+12.5%
売上総利益	56,183	36.6%	57,753	35.2%	+2.8%	25,600	30.4%	55,500	31.8%	▲3.9%
販管費	21,822	14.2%	21,815	13.3%	▲ 0.0%	12,300	14.6%	25,300	14.5%	+16.0%
研究開発費	8,130	5.3%	12,539	7.7%	+54.2%	3,900	4.6%	9,700	5.5%	▲22.6%
その他の収益・費用	54	0.0%	8,962	5.5%	+16530.8%	100	0.1%	300	0.2%	▲96.7%
コア営業利益	30,258	19.7%	27,016	16.5%	▲ 10.7%	10,200	12.1%	22,300	12.8%	▲17.5%
コア営業利益(トラスト社除く)	-	-	-	-	-	12,600	14.9%	27,100	15.5%	-
営業利益	26,284	17.1%	32,361	19.8%	+23.1%	9,500	11.3%	20,800	11.9%	▲35.7%
営業利益(トラスト社除く)	-	-	-	-	-	11,900	14.1%	25,600	14.6%	-
EBITDA(調整後)※	40,628	26.5%	36,599	22.3%	▲ 9.9%	16,100	19.1%	34,000	19.5%	▲7.1%

米国事業 純損益計算書項目

	2020年度実績		2021年度実績			2022年度業績予想				
	通期	売上比	通期	売上比	前期比	上期	売上比	通期	売上比	前期比
売上収益	33,635	100.0%	29,975	100.0%	▲ 10.9%	16,300	100.0%	32,200	100.0%	+7.4%
売上原価	17,384	51.7%	21,076	70.3%	+21.2%	9,900	60.7%	19,200	59.6%	▲8.9%
売上総利益	16,251	48.3%	8,899	29.7%	▲ 45.2%	6,400	39.3%	13,000	40.4%	+46.1%
販管費	18,119	53.9%	24,879	83.0%	+37.3%	4,400	27.0%	8,800	27.3%	▲64.6%
研究開発費	5,768	17.1%	11,884	39.6%	+106.0%	1,900	11.7%	3,600	11.2%	▲69.7%
その他の収益・費用	240	0.7%	▲40,385	-	-	0	-	0	-	-
コア営業利益	3,765	11.2%	▲708	-	-	1,100	6.7%	2,500	7.8%	-
営業利益	▲7,396	—	▲68,249	-	-	100	-	600	-	-
EBITDA(調整後)※	4,832	14.4%	410	1.4%	▲ 91.5%	1,700	10.4%	3,600	11.2%	+779.1%

※ コア営業利益+コア営業利益算出上マイナスされる減価償却費及び償却費・減損損失

フルベースからコアベースへの調整について

(単位:百万円)

	2020年度通期実績				2021年度通期実績			
	フルベース	調整		コアベース	フルベース	調整		コアベース
		日本	米国			日本	米国	
売上収益	187,219	-	-	187,219	193,816	-	-	193,816
売上原価	▲ 114,785	962	252	▲ 113,571	▲ 127,164	▲ 439	2,746	▲ 124,858
在庫のステップアップ費用	▲ 27	-	27	-	▲ 8	-	8	-
減損損失	-	-	-	-	-	-	2,299	-
その他	▲ 1,853	962	225	-	-	▲ 439	439	-
売上総利益	72,434	962	252	73,648	66,652	▲ 439	2,746	68,958
販管費	▲ 39,937	1,081	10,324	▲ 28,532	▲ 46,690	617	17,926	▲ 28,147
無形資産の償却費	▲ 5,158	528	4,630	-	▲ 4,388	593	3,796	-
減損損失	▲ 5,572	0	5,572	-	▲ 14,141	-	14,141	-
研究開発費	▲ 13,883	1,985	826	▲ 11,073	▲ 24,413	3,439	6,484	▲ 14,490
償却費	▲ 1,695	967	728	-	▲ 1,956	1,196	760	-
減損損失	▲ 930	839	91	-	▲ 7,957	2,233	5,724	-
その他の収益	325	▲ 97	▲ 229	-	15,181	▲ 8,969	▲ 6,212	-
その他の費用	▲ 51	48	3	-	▲ 46,618	12	46,606	-
営業利益	18,888	3,980	11,176	34,043	▲ 35,888	▲ 5,341	67,550	26,321

研究開発費・販売管理費

(単位:百万円、%)

	2020年度実績		2021年度実績			2022年度予想	
	通期	売上比	通期	売上比	前期比	通期	売上比
研究開発費	13,883	7.4%	24,413	12.6%	+75.8%	13,300	6.4%
日本	8,130	5.3%	12,539	7.7%	+54.2%	9,700	5.5%
米国	5,768	17.4%	11,884	39.6%	+106.0%	3,600	11.2%
広告宣伝費	2,680	1.4%	2,608	1.3%	▲2.7%	2,800	1.4%

設備投資額・減価償却費

	2020年度 通期実績	2021年度 通期実績	2022年度 通期予想
設備投資額(投資ベース)	15,018	16,620	24,600
日本	7,884	11,923	22,300
米国	7,133	4,696	2,300
減価償却費(固定資産・無形資産)	18,291	17,045	16,700
日本	11,866	11,372	13,500
生産	8,209	7,329	9,300
研究・開発	1,990	2,264	2,500
管理・営業	1,667	1,779	1,700
米国	6,426	5,673	3,200

人員情報

	2020年度		2021年度	
	3月末人数	構成比	3月末人数	構成比
日本	2,444	81.4%	2,474	83.4%
生産	1,607	53.5%	1,636	55.1%
研究・開発	246	8.2%	253	8.5%
管理・営業	591	19.7%	585	19.7%
(MR)	382	-	379	-
米国	559	18.6%	494	16.6%
合計	3,003	100.0%	2,968	100.0%

- 本資料に記載されている弊社グループの計画・予測・戦略などにつきましては、発表日現在において入手可能な情報による当社の仮定および判断にもとづくものです。従って、潜在的リスクや不確定要素により、実際の業績と異なる可能性があります。
- 潜在的リスクや不確定要素には、弊社グループの主たる事業領域であります医療用医薬品を中心とした経済環境、市場における競争状況、弊社グループのサービス等が考えられますが、これらに限定されるものではありません。

お問い合わせ先

サワイグループホールディングス株式会社
コーポレートコミュニケーション部 広報・IRグループ



ir@sawai.co.jp



06-6105-5823